

山田小学校だより (Metamorphose)



文責 校長 谷川晴峰

感情と行動の乖離 (かいり) . . . 人間にとって永遠の課題かも？

私の趣味の一つに、【読書】があります。週末になると「平戸図書館」へ出掛け、新刊本を手にし、至福のときを過ごします。

10日(土曜日)のことでした。本を借りて、自宅へ戻る途中で目にした光景です。海沿いの遊歩道を歩いていると、観光客らしき



男性が、カメラをオランダ商館や平戸大橋の方に向けて、撮影を楽しんでいました。「やはり、平戸の風景は、人の心を惹き付けるんだなあ！」と思って心が和んだその瞬間、彼の左手からは、煙を少し残したままの白い何かが放たれ、水面へと落ちていきました。その正体は . . . お分かりですね。【煙草 (たばこ)】でした。大海原にタバコが1本捨てられたくらいで、海は何も言いません。怒りもしないでしょう。それだけ、自然は懐深く私たちを受け入れてくれています。

「風光明媚な空間に、心を奪われる」という美しい感性を心に保っているものの、微細なことかもしれないが、携帯用の灰皿を使うことなく海に捨てるという行動 . . . 同じ人間であるにも拘らず、【感情と行動の乖離】が起きているのです。

私自身も、この光景を見て、「自分にもあるな！」と思いました。「言行一致」という言葉には、やはり重さがあります。自分の言葉に換言すると、まさに「考動 (考えて動く・考えながら動く)」そのものです。何気ない日常に、人生の真理があるのかもしれない。

*乖離とは：そむき、はなれること。結びつきが、はなれること。

できれば、こんな人間に (なってほしい)



昨日の全校集会で、「講話」をする機会がありました。通常、始業式や終業式等、〇〇式での話はいわゆる【式辞】という類 (たぐい) ですから、どうしても話の内容が硬くなりがちです。今回は、『これからの学校』や『近未来の生活』について、子供たちにとっても具体的な想起ができるように工夫をしました。しかしながら、1年生から6年生までに同じ様に理解させるのは、やはり至難の業だと思いました。多分、3年生以上は自分たちのこととして聞くことができたのではないかと思います . . . (是非、尋ねてみてください！)

講話の最終場面で、「山田小学校の皆さんには、できれば、こんな人間になってほしい」との願いから、【雑巾 (ぞうきん)】【消しゴム】【蝋燭 (ロウソク)】の絵を提示しました。この3枚の絵を見て、子供たちはどのような答を考えたのでしょうか？

今朝、立哨指導をしていると、「校長先生、昨日の答が分かりました！」と、息を弾ませながら、駆け寄って来る子供たちがいました。校内巡視の折にも、同じような光景が見られました。

「答」は、人それぞれでしょう。考えた分 . . . そこに「答」が生まれます。一つではないのです。